



ばく通信

No. 8



2016. 6月

特定非営利活動法人 発達障害児応援団 NPOばく

NPOばくの第8期総会が5月15日に行われました。“ばく”を始めて8年、2016年6月時点で124人の子ども達の学習支援を行ってきました。保護者や先生方から“ばくは発達障害の子ども達の支援の専門家だから”と言われることも増え、期待の重みを感じながら、スタッフ一同日々研鑽しております（公認心理師試験に向けて勉強会を行いたいと思います。関心のある方は一緒に）。“ばく”は賛助会員の皆様方の温かいご援助や励ましのおかげで活動を続けられています。今後とも、ご支援・ご協力を賜りますよう、賛助会員のご継続・ご加入をよろしくお願い申し上げます。

お知らせ：〔7/25（月）18:00～19:00 予定〕

賛助会員様向けに情報交換と勉強会を企画しています。参加ご希望の方は、前日までに当室に申し込んでください。なお、終了後に懇親会も企画しております。駐車場に限りがありますので、できるだけ公共交通機関の御利用をお願いします。

今年度在籍（2016年6月現在）

・入室児 37名（不定期指導1名を含む）

・スタッフ

指導担当	12名	教員、特別支援教育士、臨床発達心理士
相談担当	6名（指導兼任3名）	（臨床発達心理士 & 臨床心理士）
その他	1名	環境整備
運営協力者	1名	会計

計 18名

活動報告

ばくでは、一人のお子さんにたいして、相談担当と指導担当がペアになって支援を行っています。発達障害の子ども達の思春期支援について、それぞれの立場から報告します。

（報告にあたって保護者の了解を得ています。）

☆相談担当から（相談担当の役割：通訳的関わり 保護者支援 連携による環境調整）

A君は入室直後（小5）から“見たい、触りたい、したい気持ち”を抑えることが難しく、自分の気持ちが優先し、他者の視点で考えることが困難という特性がしばしば出現した。また、ことばの意味を取り違えていることもあった。しかし、多弁であることやテストで点数が取れるが故に、彼が日々の生活場面で他者との認知にずれが生じていることを先生や友達（父も）は気づきにくいようだった。

相談担当の役割はA君の考え方や分かり方を読み解き、彼と周囲の人々との相互理解が進むように通訳していくこと。また、保護者支援と共に、学校や主治医と連携をとり環境調整を行うことも必要と考えた（A君だけでなく、保護者の同意と学校の依頼があれば事例検討会に出席したり、指導について情報提供したりしている）。

指導担当と共に日々の出来事を振り返ったりする中で、相談担当自身、「そう考えたの！」と不思議な気持ちに陥ることがあった。彼の考え方を知ることでも私の考え方も広がったが、ユニークさとして通すには無理が生じる言動もあった。そこでA君の言い分を視覚化したり、文章化したりした後で、一般的な考え方を紹介するという方法をとった。A君は納得すると奇妙

ととられる言動も消失し、自分でコントロールしようとする意識もでてきた。しかし、般化の難しさや異性との距離のとり方等の課題が残り、中学校でも支援を行うことにした(ぼくの指導は小学生が中心だが、支援目標が明確で本人が希望すれば継続することもある)。

中学校入学後の環境の変化による混乱(小と中のルールについての考え方の違い)等を緩和するために、グループ指導(思春期のSST)や連携による環境調整も行った。DRや学校、ぼくの支援を受けてトラブル多発の時期を乗り越え、「(自分は)成長した」と振り返り、高校へと巣立っていった。終了生には困った時はいつでも相談可能(一般相談の枠組み)と伝えて送り出している。A君や保護者にとっても、今後もぼくが拠り所の一つであればと願っている。

☆指導担当から

思春期の女の子支援 (自己肯定感と自己調整力を支える)

思春期の女の子の支援で大切に考えていることは、自分を好きになること(自己肯定感)と、いやな気分になってもいつもの自分に戻ってこられること(自己調整力)を支えることだ。環境を整えることは周りの支援者の役割であるし、ソーシャルスキルを身につけることも必要なことである。

しかし、思春期の女の子の世界は単純ではない。くるくる変わる状況の中でほどよい態度をとることが難しいことも多い。そんな時いやな気持ちを長くひきずらないように、気分転換のために好きなことに没頭する時間を保障したり、時にはイライラをぶつける相手になったりと、支援者にはそんな役回りもある。

この疾風怒濤の時期をなんとか過ぎた後に、「私は私でいいのだ」と思えて人生を楽しめる女性になってほしいと願って支援を行っている。

思春期の男の子支援 (自己理解を支える)

他者の言動を被害的に受け止めることが多かったB君。指導効果がなかなか出ない時期が続いたが、話し合いを繰り返すうちに自分の特徴(考え方の癖)がわかり、なりたい自分のイメージを持つことができてきた。初期にカウンセリング的な関わり方を行ったことが、本児の自己理解を促し、その後の学習指導をスムーズにさせた。その経過を報告する。

➤ 第1期(4月～8月)「自分の気持ちを話すことができる」(気持ちの発散)

「分かりません」「教えてください」などヘルプが出せないB君。間違いを指摘すると機嫌が悪くなり、学習面での指導の難しさが続いた。

「友達に頼まれたことを嫌と言えない。」「(担任には)絶対言いつけることはしたくない」との訴えがあり、本児の気持ちを整理するように、カウンセリングに重点を置いた指導を心がけた。その結果、少しずつ自分がどうしたいのか、話せるようになってきた。

➤ 第2期(9月～12月)「自分の良い所、悪いところに気付く」(自己への気づき)

友達から「B君考えすぎ」と言われたことをきっかけに、「自分は疑心暗鬼になっている」と少しずつ自分を振り返る言動が増えた。同時に、指導中の愚痴が減り、学習に集中できるようになってきた。分からない時「教えて下さい」というのが早くなり、指導者の提案を受け入れるようになってきた。

➤ 第3期(1月～3月)「学習に集中することができる」(自分の特徴を知り、目標を持つ)

本児の考え方の癖を修正するために、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた。その結果、少しずつ他の考えも受け入れられるようになった。

静岡県静岡市駿河区大和2丁目6番5号 東京堂ビル305号

電話・FAX: 054-266-5616 (火～金曜日 15時～19時30分)

賛助会費振込先: 郵便口座番号 00810-6-134767 発達障害児応援団NPOばく
(一口1000円、何口でも)

E-mail: baku@orion.ocn.ne.jp

URL: <http://www.npobaku.sakura.ne.jp>